

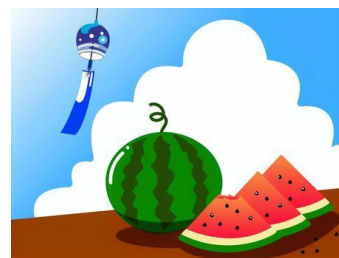
学校行事の延期について

いつもより少し短い夏休みが明け、2学期が始まりました。子供たちが、1学期同様に元気に登校し、スムーズに学校生活を再開できたことについては、家庭や保護者の皆様のご協力に対し心より感謝申し上げます。

さて、ご承知の通り、先週末から県全域に対して緊急事態宣言が発令され、学校行事にも大きな影響が出始めています。これまで、保護者の皆様の協力をいただき、子供たちも教職員も必死に対策を行い、感染症を封じ込めて参りました。夏休み中も、旅行の自粛など、ずいぶん我慢をしていただいたことと思います。おかげさまで、丸森は県内でも有数の感染症の広がりの少ない自治体です。

その、頑張ってきた子供たちが楽しみにしていた合宿や遠足、校外学習を、このような状況の中で延期せざるを得ないのは、まさに断腸の思いであります。感染症の拡大を、他の地域や人々のせいにするつもりはありませんが、こう何度も同じことを繰り返していると、感染症はもはや天災ではなく人災ではないかと思ってしまうのです。

子供たちに対しては、「中止」ではなく、「延期」であると話し、すでに日程も確保してあります。ただ、その「延期」も完全に保証されたものではありません。子供たちが、安心して生き生きと過ごせる環境を作れるよう、これからも努力して参ります。保護者や地域皆様にも、これまでと変わらぬご協力をお願いいたします。



丸森小学校秋季大運動会

すでにお知らせしたとおり、春に開催できなかった運動会を、10月16日の土曜日に実施することになりました。当初は9月末を視野に入れていたのですが、保育園の運動会や他の行事の関係で、10月の学習発表会と兼ねて実施することとしました（現在、合唱や合奏の活動が制限されているので、「表現」の演目を運動会に入れ込むことにより、合理的に実施できると考えました）。

感染症の拡大状況は不透明で、校舎の改築工事のため限られた空間とはなりますが、現在考える限り、できるだけ通常に近く、盛大な運動会を開催したいと思います。子供たちの頑張りに対しては、その子供たちが精いっぱい活躍できる環境を作ることで報いたいと思います。

今後、PTAの役員会などを通して、保護者の皆様のご意見や、運営面での実質的にご協力をいただくこととなります。丸森小の子供たち、保護者、教職員が一つになれる行事を創りあげていきましょう。



丸森小の閉校に向けて～こぼれ話①～

校歌は4番まであった

丸森小の校歌は昭和8年に制定されましたが、当時、この校歌が4番まであったことを知る人は少ないと思われます。以下に歌詞を紹介します。

校歌	
一	旭ヶ岡の 花の朝 丸森富士の 雪の暮 歴史は古き我母校 " "
二	学べよ 日々に新しく 勤めよ 励め たゆみなく 希望に充てり 我ゆくて 聖書かしこき 元帥の 贈り賜いし 四つの文字 礎 堅き我母校 " "
三	心を一に 睦まじく 守れよ 清き 我が山河 溢るる力 我にあり 清き流れの 阿武隈や 映りて 澄める 秋の月 光隈なき我母校 " "
四	明るき心 培えよ 正義の為に奮い立て 意気に高鳴る我心 勝海舟が ものしたる 校旗までもにかざしつ 誉 輝くわが母校 " "
	薫れよ 花と かんばしく 伝えよ 永久に この栄を 我らが健児わが母校 " "

※一部原文のまま

当時の日本は、満州事変を経て軍国主義にひた走る時期で、当時制定された校歌もその影響を強く受けたものでした。詳しくはわかりませんが作詞の亀井盛隆氏は、軍に関わりがあった方ようです。

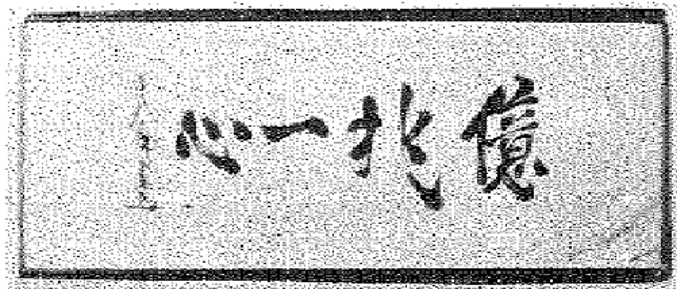
おそらく、戦後、新しい教育がスタートするにあたり、ふさわしくないとされた2番と4番を削除し、残りの1番と3番を残して現在に至っているものと思われます。

元帥？ 四つの文字？

4番まで読んだときに、意味が分からなかったのが、2番にある上の二つの言葉でした。校長室には勝海舟書の「丸森学校」の扁額があるので、その4文字のことかとも思いましたが、勝海舟が元帥だったことはないと言っています。

その後、古い記念誌などを眺めていた時に、その謎が解けました。そこにあった写真が以下のものです。

なんと元帥とは「東郷平八郎元帥」のことだったのでした。残念ながらその額は残っていませんが、当時の丸森小の「宝」だったのでしょう。それにしても「億兆一心」とは、なんとも勇ましく、戦時色の強い言葉でしょうか。



元帥 東郷平八郎 書

